



夏季休業中、地域の方・教職員向けに人権研修会を行いました。その報告です。

テーマ①「外国につながるのある児童生徒の現状と具体的な支援」

講師:木下 理仁さん

【かながわ開発教育センター(K-DEC)事務局長/東海大学国際学部国際学科 非常勤講師】

1グループに4、5人のグループワーク形式で研修会を行いました。

在留外国人の状況と「ことば」の問題について、現在の国内、県内の人数推移や、進学状況などを含めて学んだ後、グループワーク「愛子さんに何が起きたのか」を行いました。グループ内で外国につながるのある小学生の女の子の関係者として役割分担し、それぞれの情報をもとに「愛子さんはどんな子なのか」「愛子さんはどんな悩みや問題を抱えているか」について話し合いました。最後に日本に暮らす外国につながるのある方のインタビュー動画を見させていただき、生活するときに困ることや母国との違いについて学ぶことができました。



「愛子さんに何が起きたのか」
グループワークの様子
それぞれの役の台詞カードに
書かれた情報を伝え合い、
愛子さんの状況を考えました。

グループで話し合ったことを全体に共有し、
いろいろな意見を聞き合いました。



事後アンケートより

「外国につながるのある方々が感じる課題についてどのようなことを理解しましたか」

- ・ 外国の方は日本の学校のことがわからないということを忘れずに、その国のこと、文化などを知ることが大切。社会でサポートする必要がある。(外部参加者)
- ・ 外国につながるのある方々の課題は大まかに知っているつもりでしたが、多様な背景について目の前で接する子どもたちのことを理解できていない状況で接していたことに気づかされた。日本人である自分が思いつくことはまだまだ足りないと思った。(本校教職員)
- ・ 児童生徒だけでなく、保護者も孤立しがちだということ。学校や行政からできるだけ積極的に働きかけることが大事だということ。(本校教職員)

テーマ②「ハンセン病問題から考える人権課題 その歴史と現状」

講師：西浦 直子さん

【国立ハンセン病資料館学芸員 事業部社会啓発課 課長】

国立ハンセン病資料館と、本校をオンラインでつないでの研修会を行いました。

ハンセン病問題について、数々の資料や当事者、ご家族の声などとともに、歴史的な経緯について学びました。患者や回復者が受けた被害がどのようなものであったかについて、国が行った政策や、療養所での生活、現在も続くハンセン病問題の状況などを具体的に説明してくださいました。当事者やご家族から伺ったエピソードなどをたくさん紹介していただいたことで「人として生きる」ということを改めて考えさせられる研修会となりました。



事後アンケートより

「参加する前と比べて、ハンセン病問題についての考え方などに変化はありましたか」

- ・ 「みんなのため」「病気が伝染るかもしれない」という大義名分と、他者への人権意識が薄れたときに、人間はどこまでも非常に残酷な行為ができてしまうのだと思った。そういうことを許さないようにしていきたい。(本校教職員)
- ・ ハンセン病は治る病気だということは知っていたが、過去にあった隔離生活などの話を聞いていて、どこかで怖い病気という思い込みが少しあった。しかし、今回の講義を聞いて正しい知識を持つことでどのような人にも豊かに暮らせる日常の環境づくりが大切だと思った。(本校教職員)
- ・ 今も続いている差別、人々が作り上げた恐怖それが最大の問題であり、今の社会環境にもつながると感じました。(本校教職員)
- ・ 今ある差別を止めるのにも、そもそも自分が理解していないと差別に気づくこともできないので、しっかりと知識を持つことが大切だと改めて気づいた。(本校教職員)
- ・ ハンセン病についてよく知らなかったのが、知ることができてよかった。間違った情報でたくさんの人たちが苦しんできた。正しいことをみんな知ることが大切と感じた。(本校教職員)

テーマ③「アイヌの人々の歴史と人権課題」

講師：宇佐 照代さん

【アイヌ民族文化財団 アイヌ文化活動アドバイザー】

アイヌ文化活動アドバイザーとして活躍されている宇佐照代さんに来校していただき、アイヌ文化について、歴史的な背景について、また、宇佐さんのルーツについて学びました。「七五郎沢の狐」の動画を視聴させていただいたり、宇佐さんによるムックリやトンコリと呼ばれる楽器の演奏や歌声を聴かせていただいたり、宇佐さんのおばあ様とのエピソードなどを聴かせていただいたりすることができ、「生きる」ということ、「民族としての誇り」に迫ることができる時間でした。



事後アンケートより

「アイヌ民族の人権課題について、子どもたちに考えて欲しいことは何ですか」

- ・ 自分自身や自分のルーツを否定されることを考えて欲しい。外見などで人を決めつけたり、差別したりしないこと。(本校教職員)
- ・ 自分の好きな物や大事にしている物を奪われることがどんなことか自分のこととして考えてもらいたい。同時に文化の違いを認め合えたり、自分の文化やルーツに誇りをもったりして欲しいと思った。(本校教職員)
- ・ その土地に根ざした文化、伝統について知ることから多様性を考えていくこと。(本校教職員)
- ・ 違いを受け入れることの大切さというよりも、人はそれぞれ考えや価値観が違って当たり前ということ。いろいろな人と出会って交流することの楽しさ、大切さ。(本校教職員)
- ・ 北海道の開拓の歴史の中で、アイヌの方々を受けたことというのは、日本だけでなく世界中にある話だと思います。アイヌの方々(歴史)のことを知ることによって、世界に目を向けたり今も続く課題であるという認識をもったりしてほしい。(本校教職員)
- ・ 少人数がゆえにとか、違うことがゆえに、知らないことがゆえに持っている偏見について一緒に考えたい。(本校教職員)